

条幅部自由参考

6月25日正午必着

明石春浦先生書



白鳥しろとりは哀かなしからずや空あその青うみ海うみのあをにも染しまずただよふ(若山牧水)

明石幸子書



簾前花落常疑雨、樹裏雲過忽見山(殷邁)

すだれの前に雨かと思われるように花が散り、雲が樹々の間からはれて思いがけなくも山の姿が見えた。

下筆生龍通籀史  
 勒銘立馬見將軍  
 摘岳廬詩

下筆生龍通籀史  
 勒銘立馬見將軍 (摘岳廬詩)

筆を下せば、龍が飛ぶように生き生きとして、史籀の大篆のようであり、銘を刻めば、馬が立ちあがるほどにすばらしく、將軍を見るようだ。この対句は、吳昌碩がある人の書を見て、作品の雰囲気や技法をほめたたえて詠んだもの。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

眠雲臥石 (劉禹錫)

雲に眠り石に臥す

塵俗から離れて心を高尚にもつこと。

滿地落花涼雨後  
數聲幽鳥黑甜餘 (許恕)

滿地の落花涼雨の後  
數聲の幽鳥黑甜の餘

初夏の光景。黒甜はひるね。午睡。蘇軾の詩に「一枕黒甜餘」と。

寄友人 (張蠙)

友人に寄す 張蠙

世道復何如 東西遠索居  
長疑卽見面 翻致久無書  
旬麥深藏雉 淮苔淺露魚  
相思不我會 明月幾盈虛

世道復た何如 東西遠く索居す  
長に疑う 卽ち面を見るかと 翻って致す 久しく書無きを  
旬麥 深く雉を藏し 淮苔 浅く魚を露わす  
相思えども 我と會せず 明月 幾たびか盈虚せし

蒲公英の文様おく芝にひねもすを藤の花粒散りたまるらし (吉野秀雄)

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

古 清  
寺 晨  
入

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

清晨入古寺

隸書

清晨入古寺

明石春浦先生書

草書

清晨入古寺

行草書

清晨入古寺

すがすがしい晨、年古りた寺に入って行くと、おりしもさしのぼる朝日の光が、空高く茂る林の梢を照らす。曲りくねった径は、すかにおくまった処に通じ、僧房のあたりに、花咲く木々が深く茂っている。山中の風光は、鳥の本来の性を満足させ、潭に映ずる影は、人の心の雑念を拭い去ってくれ、すべての物音が、いまやここにすべてひっそりとしずまり、ただ寺でうちならす鐘と磬の音だけがきこえてくる。

題「破山寺後院」 常建

清晨入古寺

初日照高林

曲徑通幽處

禪房花木深

山光悅鳥性

潭影空人心

萬籟此俱寂

惟聞鐘磬音

破山寺の後院に題す 常建

清晨 古寺に入り

初日 高林を照らす

曲徑 幽処に通じ

禪房 花木深し

山光 鳥性を悦ばしめ

潭影 人心を空しうす

万籟 此に俱に寂たり

惟だ鐘磬の音を聞くのみ

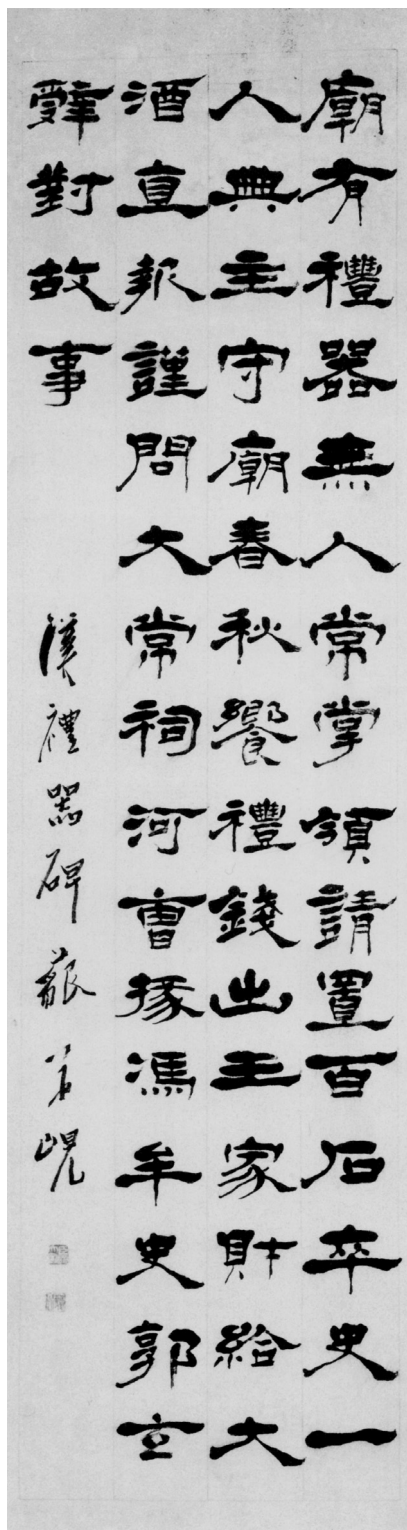
(出典)  
朝日新聞社刊  
「三体詩」下より

6月25日正午必着



春秋饗禮。錢出

三浦士岳先生臨書



廟有禮器。無人常掌領。請置百石卒史一人。典主守廟。春秋饗禮。錢出王家財給大酒直。報。謹問大常。祠河曹掾馮牟。史郭玄辭對。故事……。漢禮器碑（乙瑛碑）。貌翁峴。

清 楊峴・臨乙瑛碑軸

楊峴（一八一九〜一八九六）は清代末期の書家で学者。字は見山、庸齋・貌翁などと号した。浙江省帰安の人で、咸豊五年（一八五五）に挙人の称号を与えられ、江蘇省常州・松江府知事にいたった。幼少より詩文を学び、晩年は官を去り、読書、詩書の生活を送った。

楊峴の書は、六十歳までは曹全碑をベースに柔軟な線を多用し、あまり波磔を強調しない特徴があったとされているが、六十歳を過ぎた頃から漢隸の典型とされる礼器碑・乙瑛碑などを主とした強烈に誇張した波磔の隸書の完成へと至ったといわれ、特に礼器碑に没頭し、適麗で変化に富んだ筆致をもって一家を成し、清代の北碑派に個性的で新しい書風を開いたといわれている。

※令和三年、玄和三・四月号掲載の古典と比較、研究してみ  
るのも良いかと……。 （春濤）



(半折1/4)

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



春秋饗禮。錢出王家財給大酒直。報。

蔵巧於拙

〔菜根譚〕前週)

非凡な才能による巧妙さは内に隠し、拙劣な振る舞いをする。それは我が身を安全に保つ手段である。

6月25日正午必着

教育部毛筆

ひ きょう  
秘 境

中学一年

雨宮春聲先生書

たび じ  
旅 路

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

が

か

小学五年



横川春川先生書

はん

だん

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



6月25日正午必着



せん

り

小学三年

藤田幸春先生書



あぶら

え

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

つ ゆ 小学一年・幼年



森戸春濤書

ただ正 す 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

田植えでいそがしい	つゆのころ農家は
-----------	----------

小学五年

り早く駅に着いた	待ち合わせの時間よ
----------	-----------

小学六年

底の雲のみね糸	しづか下や湖水の
---------	----------

中学

を痛感するようになった	今更ながら健康の有難さ
-------------	-------------

一般(級位)

誰にも知らずにせむ言砂	の松も昔の友ならなくに
-------------	-------------

一般(段位)

誰<sup>たれ</sup>もかも知る<sup>しる</sup>人にせむ<sup>せむ</sup>高砂<sup>たかさご</sup>の松<sup>まつ</sup>も昔<sup>むかし</sup>の友<sup>とも</sup>ならなくに  
(藤原興風<sup>ふじわらのおきかぜ</sup>)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

か	れ
	ん
き	げ
れ	の
い	
で	は
す	な

幼年

あ	き
じ	れ
さ	い
い	に
の	さ
花	い
	た

小学一年

う	犬
ま	の
れ	赤
ま	ち
し	や
た	ん
	が

小学二年

み	山
が	の
見	上
え	か
ま	ら
し	
た	う

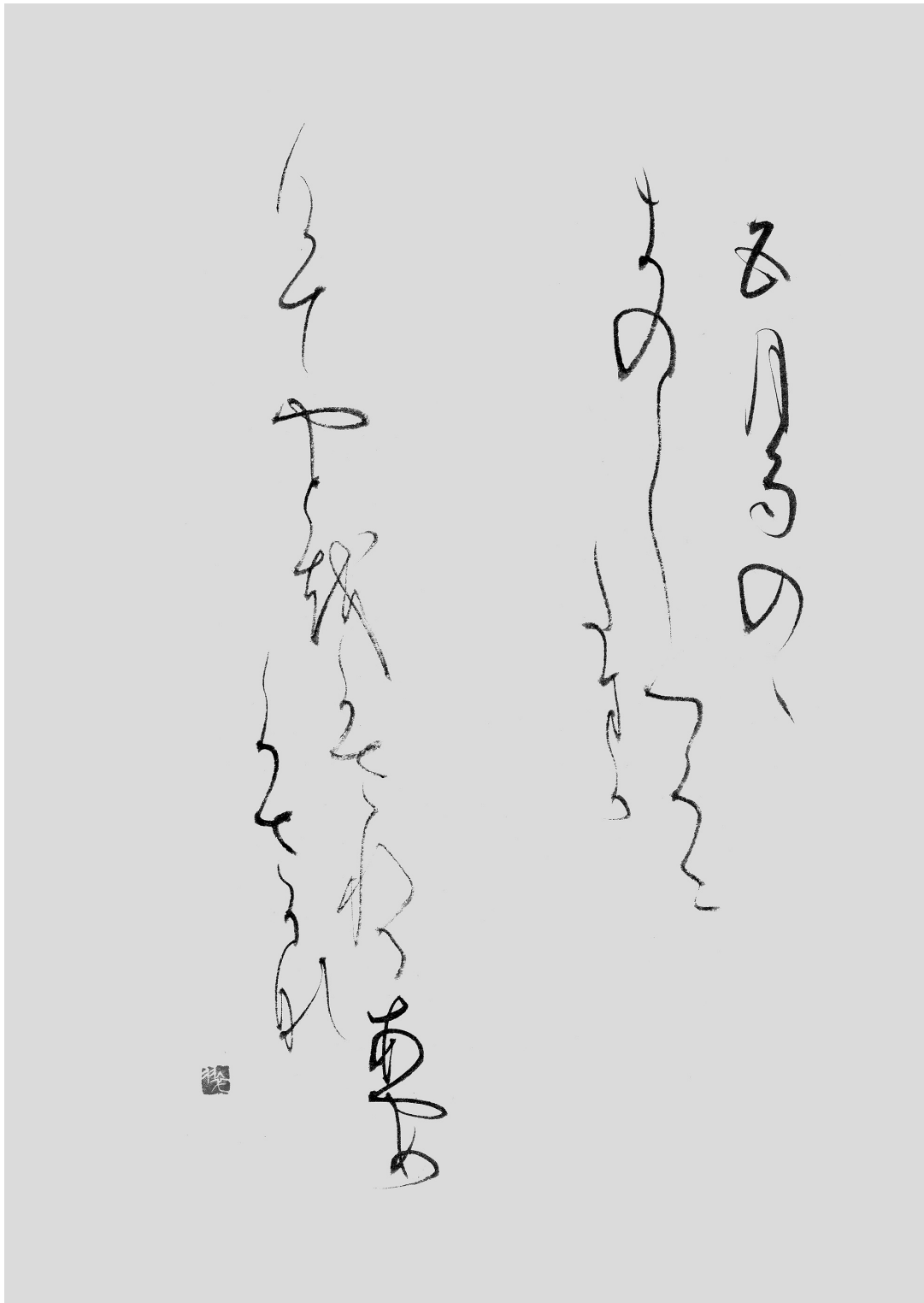
小学三年

か	キ
う	ャ
も	ベ
ん	ツ
白	畑
ち	を
よ	と
う	び

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

五月雨の  
 支 くのしづくに  
 二 多まかけて  
 万 可 個  
 越 可  
 やとをかされる  
 可 那  
 あやめくさかな  
 (西行)